

沖ノ島展望台

地島で最も標高の高い遠見山（182 m）には2つの展望台があり、九州の海岸の西側に広がる玄界灘を見渡せます。沖ノ島展望台は、沖ノ島のほうを向いています。沖ノ島は聖なる島であり、古くから信仰の対象となってきました。この地域一帯で、沖ノ島が見える場所は、沖ノ島の神々に遠くから祈るための「遥拝所」だと考えられています。沖ノ島自体を訪れることは許されないためです。地元の人々や山歩きをする人々は、現在もこれらの場所に来て、沖ノ島に敬意を表しています。

沖ノ島展望台には英語の表示もあり、水平線上で沖ノ島を見つける助けになります。この展望台のそばには、石垣の跡があります。これは、船を監視し鯨を見つけるために建てられた江戸時代（1603～1867年）の番所と見張り台の跡だと考えられています。

2つ目の展望台は、遠見山の登山道にある大敷展望台です。ここからは、北九州方面が望めます。